

**社会資本整備審議会 道路分科会 関東地方小委員会**  
**中部横断自動車道（長坂～八千穂）ワーキンググループ（WG）**  
**（第 3 回）**

**議事概要**

1. 日 時 平成25年6月27日（木）18：00～20：00
2. 場 所 九段第3合同庁舎内会議室
3. 出席者  
[座 長] 久保田 尚（埼玉大学大学院理工学研究科教授）  
[委 員] 小濱 哲（横浜商科大学貿易・観光学科教授）  
二村真理子（東京女子大学現代教養学部国際社会学科准教授）  
[関東地方整備局] 甲府河川国道事務所長 吉岡 大藏  
長野国道事務所長 柳谷 哲
4. 議 事  
(1) 挨拶  
・ 関東地方整備局 甲府河川国道事務所長  
(2) 審議  
・ 中部横断自動車道（長坂～八千穂）山梨県内区間のルート検討

<委員からの主な意見等>

- ルート帯（案）のとりまとめについて座長からの提案
  - ・ これまでのルート帯（案）の比較、現地調査では、「主要な観光地間の連携」や「概ねの費用」の観点から「B案」が優位と確認できること、地元自治体から「B案」を望む意見書が提出されていることから、ワーキンググループとしては、「B案」をルート帯（案）としてとりまとめて良いのではないかと。
  - ・ 地域団体、地元住民等からの「環境・景観への配慮を求める意見」や「住民参加の道づくりを求める意見」に配慮し、北杜市長からの「中部横断自動車道を踏まえたまちづくりを推し進めるための市民協働で推進する体制」の提案を踏まえ、次の3点の付帯意見を提案する。
    - ・ 環境・景観に十分に配慮した設計・施工をすること
    - ・ 地域のまちづくりと高速道路整備が調和するように、継続して地元住民の意見を聞く仕組みを構築すること
    - ・ これらについては、経済性に配慮しつつ、積極的に対応すること
- 座長からの提案について委員からの意見
  - ・ 座長の提案に賛成。
  - ・ 大型の投資なので、環境・景観に十分に配慮すべきだが、無尽蔵にコストを掛けるべきではない。経済性・効率性に配慮した適切なレベルが必要。
  - ・ 環境については、自然環境、地域の生活環境があり、景観については、道路周辺の景観、道路そのものの景観がある。環境・景観には、これらの概念を含めるべき。
  - ・ 将来の産業や人の動きに影響を与える地域のまちづくりのビジョンについて、地域で検討されるべき。
  - ・ 長野県側においても、農業の振興などの観点から、中部横断自動車道に大きな期待が寄せられている。
- 座長からの提案について了承され、ワーキンググループとして、下記の通りとりまとめることとし、関東地方小委員会に報告することとした。
  - ルート帯（案）は「B案」が適当
  - 付帯意見
    - ・ 環境・景観に十分に配慮した設計・施工をすること
    - ・ 地域のまちづくりと高速道路整備が調和するように、継続して地元住民の意見を聞く仕組みを構築すること
    - ・ これらについては、経済性に配慮しつつ、積極的に対応すること